

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	
-------	--

分 析 項 目	
分 析 方 法	スペクトル干渉の補正又は低減方法
前 処 理 日	
分 析 日	

【分析結果】

標 準 液		内標準物質及び濃度
標準液 1		
標準液 2		
標準液 3		
標準液 4		
標準液 5		
標準液 6		
標準液 7		
標準液 8		
標準液 9		

上記の面積値等と濃度の 相関から得られた数式	X:	Y:
---------------------------	----	----

相関係数 (R)	(相関式は一次式以外でも可)
決定係数 (R ²)	

試 料	前処理試料 分取量 (mL)	前処理定容量 (mL)	分析時の 希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試料ブランク					
試料 1 回目					
試料 2 回目					
試料 3 回目					

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

	mg/L
--	------

(記入例)

(様式 1)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	〇〇〇〇株式会社大阪試験センター
-------	------------------

ひ素の分析を、JIS K 0102. 61.4を用いて分析した場合のみ、スペクトル干渉を補正する手法又は低減する手法を記入する。

分析項目	ひ素	スペクトル干渉の補正又は低減方法	コリジョン・リアクションセル
分析方法	JIS K 0102 61.4		
前処理日	H27.11.11		
分析日	H27.11.12		

濃度(単位)又は重量(単位)を記入する。

【分析結果】

標準液	濃度(μg/L)	イオンカウント数の比	内標準物質名・濃度 In 20.0 μg/L
標準液 1	0	0.0584	602000
標準液 2	1	1.92	607000
標準液 3	5	10.3	597000
標準液 4	10	22.6	606000
標準液 5	15	29.5	649000
標準液 6			
標準液 7			
標準液 8			
標準液 9			

吸光度、ピーク%、面積、発光強度、強度比、イオンカウント数の比等該当するものを記入する。(オートアナライザーを用いた場合は、ピーク%を記入す

内標準法を採用するときは内標準物質名、濃度を記入する。

検量線の作成に用いた標準液を全て記入する。

X、Yの内容を明確にする。

上記の面積値等と濃度の 相関から得られた数式	$Y=2.0325X+0.2736$	X: 濃度(μg/L)	Y: イオンカウント数の比
相関係数(R)	0.9955	(相関式は一次式以外でも可)	
決定係数(R ²)	0.9910		

計算過程が記入しきれない場合は別紙に記入して提出しても良い。

試料	イオンカウント数の比	前処理試料分取量(mL)	前処理定容量(mL)	分析時の希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試料ブランク	0.502413	50	100	2	-	$(0.5024126-0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2=0.000450$
試料 1 回目	7.871362	50	100	2	-	$(7.873162-0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2-0.000450=0.01450$
試料 2 回目	7.760824	50	100	2	-	$(7.760824-0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2-0.000450=0.01474$
試料 3 回目	7.980591	50	100	2	-	$(7.980591-0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2-0.000450=0.01517$

換算係数があれば記入する。

個々のデータを算出する時にブランク値を差し引く。

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

0.015	mg/L
-------	------